



繋がりを 大切にして

令和4・5年度同窓会長
西尾 ひと美 (高校30回)

同窓会の皆様におかれましては、ご清祥の事とお慶び申し上げます。平素は同窓会活動にご支援ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

思いもよぬ世界規模の新型コロナウイルスの猛威を受け、同窓会活動も様々な制約を受けてまいりましたが、長いトンネルをようやく抜け、再び動き出すことができるようになってまいりました。

そんな状況の中で、同窓会では、在校生がよりよい教育環境の中で勉学に励めるような母校への応援と、同窓会員の親睦を図るための活動を大切にし、役員をはじめ各支部代表の理事の皆様から様々なご意見やアイデアをいただきながら活動してまいりました。

公開された二葉祭の中で行いました“明治のピアノと奏でるロビーコンサート”では、出演者を募ったところ、生徒をはじめ多くの方々が手を挙げてくださり、充実した演奏会になりました。演奏に足を止めて聴いてくださった一般の方々、同級生の演奏を鑑賞しようと集まった多くの在

校生、また、遠方から明治のピアノを弾きたいと駆けつけてくださった方、その応援にと集まってくださった同窓生の皆さんなど、ロビーには明るい笑顔があふれていました。二葉高校の伝統である自由闊達な雰囲気が受け継がれていることを感じ、うれしく思いました。

また、教育分野はICT化が急激に進み、手狭な机上では思うようなタブレット操作もできにくいという要望にお応えし、ここ2年間で、机上を拡張する「天板拡張くん」を全校分寄贈いたしました。広くなった机上で熱心に学習を行っている様子をお聞きしております。

このような活動を諏訪から離れていらっしゃる方々にも、会報のみでなく、身近に感じていただきたいと考え、HPでの発信と併せ、昨年度、総会の様子をオンラインで配信いたしました。今年度も、第89回総会での演奏会の様子、第90回総会での講演会の様子を合わせて配信させていただきます。(詳しくは24ページに記載されております。)ぜひご覧いただき、同窓会の皆様に、心のふるさとであります二葉高校を懐かしみ、思いを寄せていただけたらうれしく思います。

今後も、新しい時代の流れの中で、二葉高校の発展にふさわしい同窓会を、河西美智与新会長を中心に作られていくことを祈念し、会長退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



我が母校も 時代と共に

令和6・7年度同窓会長
河西 美智与 (高校31回)

同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝で活躍のこととお慶び申し上げます。

西尾ひと美前会長の後を受けて令和6・7年度の会長として務めさせていただくことになりました。二葉高校同窓会は昭和8年に発足し、今年で90年目を迎えることになります。この長き二葉高校と同窓会の歴史や伝統を思いますと、その責の重さに身が引き締まります。微力な私でございますが、母校と同窓会の発展のため、本部役員、理事をはじめとする同窓会会員の皆様のお力をお借りしながら誠実に、そして感謝の気持ちをもって精一杯務め

させていただきますのでよろしくお願い致します。

昨年、県教育委員会が2030年に定める高校再編3次計画を発表しました。諏訪地域6市町村では6校から3つの新校に再編するというものでした。この再編計画に我が母校の名がないのを確認して安心しました。とはいえ社会の大きな変化と急激な少子化が進む中、生徒数の減少で学習環境の維持が困難になってきている高校が増加してくるので、統廃合の必要性は認識します。そんな中、昨年、諏訪二葉高校の新入生は男女共学以来とうとう男子生徒が女子生徒の人数を超えました。私たち同窓会は活気ある現役学生を応援し、二葉の良き伝統を受け継ぎつつ、男女参画時代に即した同窓会活動を行っていきたく考えております。どうぞ同窓会会員の皆様には一層のお力添えを頂けますよう、心よりお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが、就任のご挨拶とさせていただきます。

同窓会の活動 2年間で各種の活動を行いました

2022(令和4)年度 第88回定期総会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定期総会は中止となりました。
同窓会会則に則り、議事については理事会で審議・承認しました。



次 第	会長挨拶
	学校長挨拶
議 事	議 事
	・2021(令和3)年度事業報告、 決算報告並びに監査報告
	・2022(令和4)年度事業計画案、予算案 質疑、承認
	・2020(令和2)、21(令和3)年度役員、 退任の挨拶



同窓会と二葉生をつなぐ掲示板は、令和2年度に設置され、本年度も活用しました

2022(令和4)年度 事業報告

◇新型コロナウイルス感染拡大防止のため、88回定期総会、二葉祭同窓会コーナー、三者共催講演会等の事業は実施できませんでした

◇ホームページ及び、同窓会掲示板(二葉祭応援メッセージ、体育祭応援メッセージ、進路に関わる本の紹介、活躍する先輩の姿等)を作成し、掲示しました

◇主な事業

令和4年

- 4月24日 第88回定期総会(上記の通り)
- 4月25日 学校関係者との顔合わせ、新旧正副会長・監事の引継ぎ
- 6月13日 陸上部・新体操部北信越大会出場へのお祝い金贈呈
- 6月24日 二葉祭お祝い金10万円贈呈、吹奏楽部定期演奏会への支援金を贈呈
- 7月15日 第1回理事会—学校や二葉生を支援する同窓会活動の工夫について意見交換他、水泳部北信越大会出場へのお祝い金贈呈
- 7月28日 全国高校総合文化祭(放送部門)出場へのお祝い金贈呈
- 9月29日 学校教育支援金(100万円)贈呈式(役員6名参加)
- 10月13日 陸上部2名北信越新人大会出場へのお祝い金贈呈
- 10月27日 かるた同好会北信越大会出場へのお祝い金贈呈
- 11月14日 弓道部北信越大会、全国大会出場へのお祝い金贈呈及び懸垂幕作成

令和5年

- 1月12日 スケート1名全国高校スピードスケート大会、全国高校選抜スピードスケート競技会出場へのお祝い金贈呈及び懸垂幕作成
- 2月16日 第2回理事会—各支部運営上の諸問題と企画運営の工夫について意見交換他
- 2月17日 生徒机天板の拡張板「天板拡張くん」2学年分寄贈

「授業でタブレット使用になったが、机が狭すぎ、高価な機器を落として破損させてしまうことも少なくない」との、学校からの要望を受け、理事会承認を経て「天板拡張くん」の寄贈となりました

- 3月 2日 諏訪二葉高校卒業式 卒業証書ホルダー贈呈
※理事からの応援メッセージ掲示
- 4月 3日 信州つばさプロジェクトSDGs探究コース参加生徒への支援金贈呈
- 4月 6日 諏訪二葉高校入学式 校章とネクタイ贈呈
※理事からの応援メッセージ掲示
- 4月10日 第3回理事会—第89回定期総会打ち合わせ他



多くの二葉生が様々な分野で活躍しています。同窓会は微力ながらその後押しを



「天板拡張くん」の付いた机で学習する

2023(令和5)年度 第99回定期総会

◇期日／令和5年4月23日(日) 10:00～12:10

◇場所／ホテル紅や

〔第1部〕

- 1) 開会の辞
- 2) 校歌
- 3) 物故者への黙とう
- 4) 会長挨拶
- 5) 学校長挨拶
- 6) 来賓紹介
- 7) 来賓祝辞
- 8) 議 事

- ・2022(令和4)年度事業報告、決算報告並びに監査報告 質疑、承認
- ・2023(令和5)年度事業計画案、予算案 質疑、承認

〔第2部〕演奏会

- ・ボサノバライブ
『赤羽泉美～森薫るボッサ～』
- フルート／赤羽 泉美(52回生)
- サクソ／佐藤 宏信
- ギ タ ー／本間 尚樹



赤羽泉美さん
プロフィール

辰野町出身。2014年アルバム『ホワイト・ボッサ』でメジャーデビュー。その後2枚のソロアルバム『ソライロ・スコープ』『羽色』をリリース。子宮頸がん予防啓発活動に積極的に取り組んでいる。

参加者の感想

- ・ボサノバをフルートで聴くのは初めてでしたので素晴らしかったです。フルートの深みや演奏のうまさだけではなく、二葉高校への思いやエピソードも盛り込まれており、人生を垣間見ることができました。
- ・素敵なコンサートでした。校歌のアレンジ曲には、思わず涙が込み上げてくるような感覚を覚えました。
- ・やはり生の演奏は素晴らしいです。演奏者の方々の人柄も溢れ出ていました。ご自身の病気のことも共感できる部分があり、心に刺さりました。皆様の今後のご健康とご活躍をお祈りいたします。

2023(令和5)年度 事業報告

◇主な事業

- 4月23日 第99回定期総会(上記の通り)
- 5月30日 「天板拡張くん」1学年分贈呈
- 6月 5日 陸上部北信越大会出場へのお祝い金贈呈、吹奏楽部定期演奏会支援金贈呈
- 6月12日 新体操部北信越大会出場へのお祝い金贈呈、少林寺拳法全国大会出場へのお祝い金贈呈・懸垂幕作成
- 6月26日 二葉祭お祝い金10万円贈呈
- 7月1.2日 二葉祭 同窓会コーナー及び明治のピアノと奏でるロビーコンサート(P4,5参照)
- 7月13日 第1回理事会—第90回定期総会第2部の内容について意見交換他 水泳部北信越大会出場へのお祝い金贈呈
- 10月13日 親睦バス旅行(P6参照)
- 10月20日 陸上部1名北信越新人大大会出場へのお祝い金贈呈
- 10月26日 学校教育支援金(100万円)贈呈式(役員7名参加)
- 12月25日 「大正のリードオルガン」のカバー制作・贈呈

「明治のピアノ」と並ぶ「大正のリードオルガン」(大正5年製造)には、カバーがなく汚れが心配されたため、今年度特注で緑のベルベットカバーを作りました。

- 1月10日 スケート1名全国高校スピードスケート大会、全国高校選抜スピードスケート競技会出場へのお祝い金贈呈
- 2月15日 第2回理事会—各支部活動報告と運営上の諸問題について
- 3月 1日 諏訪二葉高校卒業式 卒業証書ホルダー贈呈
*理事からの応援メッセージ掲示
- 4月 4日 諏訪二葉高校入学式 校章とネクタイ贈呈
*理事からの応援メッセージ掲示
- 4月11日 第3回理事会—第90回定期総会運営について他
- 4月21日 第90回定期総会、吹奏楽部演奏及び宮坂佐和子さん(29回生)講演

『月間Piano』11月号

(2023.10.20発行)に、

二葉高校正面玄関ロビーに
置かれている「明治のピアノ」
と「大正のリードオルガン」
が紹介されました。

「明治のピアノ」は、1911年(明治44年)諏訪高等女学校時代、新校舎完成を祝して購入されたものです。ウォルナット生地塗りで真鍮製の燭台付き、鍵盤蓋の上前板や脚部には精緻に彫刻が施された優美な楽器。ペダルは4本でチェンバロの機能がついています。

昭和になると、グランドピアノに主役の座を譲り、廃棄の憂き目を見ましたが、100周年記念事業の一環で復元しました。復元にあたり、当時の笠井同窓会長は「受け継いだ時は、無残な姿。修理に出しても復元が難しく、時間がかかった。3回、現場に足を運んだ」と。

「諏訪二葉の歴史に寄り添い、伝統と共に生きていく」と、紹介されています。



第64回 二葉祭への参加

第64回二葉祭が令和5年7月1、2日の2日間、4年ぶりに一般公開されました。それに伴い、同窓会も4年ぶりに二葉祭に参加させていただき、二葉生の若くたくましい力を肌で感じることができました。

今回、同窓会として大きく2つの取り組みをしました。一つは、会議室に休憩所を作り「同窓会コーナー」を設けたこと。もう一つは、生徒会と共催し「明治のピアノと奏でるロビーコンサート」を実施したことです。

同窓会コーナー「過去の写真展示と平和を願う折り鶴作り」

会議室に来校者の休憩所を作り、お茶とお菓子を提供しました。休んでいただくだけでなく、二葉のこれまでの写真や記念誌を並べて見ていただくと共に、『写真で語る 二葉百年のあゆみ』に載せられている戦争に関わる記録を模造紙にまとめ、掲示しました。

ロシアのウクライナ侵攻をはじめ、世界では多くの戦争や紛争が続いています。それは他人事ではなく、そう遠くない過去に、日本にもそうした時代があり、二葉生もその中で強く生き抜いていた…。机に折り紙を置き、呼びかけ

たところ、多くの方が平和を願い、鶴を折ってくださいました。一般公開で折られた折り鶴はなんと342羽。糸でつな



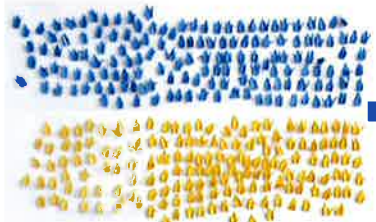
いだものは、8月6日の平和祈念式典に参列する近隣中学校の千羽鶴の一部に入れていただきました。



年代順に校舎の写真を並べました



休憩の合間に折ってくれました



机上に置いた折り紙の色は、「平和を願う象徴」として、ウクライナの国旗の色を選びました。
折っていただいた鶴を黒板の模造紙に貼り、つなげた後に広島平和公園「原爆の子の像」に捧げました。

来室者の感想(机に置いた感想ノートから)

- 二葉高校の歴史と 생각이、詰まっているように感じました(10代)
- 数年?十数年?ぶりに、母校にきました。楽しくて楽しくて仕方なかった高校生活を思い出しました。屋上に自由に出られた大好きな校舎でした(40代)
- この場所があって休めました。校舎懐かしかった(50代)

掲示した模造紙の内容(抜)

(『写真で語る 二葉百年のあゆみ』から)

戦時体制下において

- ①銃後の守り…千人針を縫う。
慰問袋の製作・発送(昭和13年)

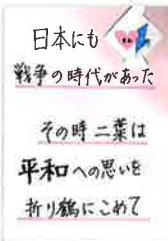
- ②金属類の供出…

階段の手すりに使われた真鍮、書庫の金属の引き手を初め、およそ金属と呼ばれるものはことごとく撤収された。トラックに積まれて運び出されるのを涙を浮かべて見送った。



戦前、校門横には鉄の手すりがついた柵があった。それが戦時の金属供出により、手すりはすべて回収され、コンクリート製の支柱だけが今もそのまま残っている。

- ③黒塗りの校舎…昭和20年、政府の指導により攻撃目標となる市域にある建物の白壁はすべて、黒く塗られることになった。諏訪高女の白亜のモダンな校舎も手の届くところは生徒が刷毛を握り、涙ながらに塗装を行った。(P12に写真があります)



「明治のピアノと奏でるロビーコンサート」

二葉祭2日目の令和5年7月2日、生徒会と共催で「明治のピアノと奏でるロビーコンサート」を開催しました。出演者を広く募り、生徒と保護者を中心とした同窓生や教員など、10組16名の皆さんに演奏していただきました。

「明治のピアノ」は明治44年、初代岩垂今朝吉校長の時代、岡見山校舎新築の折に当時500円の予算を組み、諏訪高女専用のピアノとして購入されたものです。そのピアノを100周年記念事業として同窓会で修理復元いたしました。その後、毎年秋にロビーコンサートを開き、演奏会を行ってきました。

今年度は多くの方々が集まる文化祭で、経験の程度を問わず「明治のピアノ」を弾いて発表したい人を募りました。その結果、在校生や保護者、同窓生、教師と教え子の皆さんにより、ピアノ独奏、連弾、歌とピアノ、ギターとピアノ、チェロとピアノ、ドラムとピアノなど、多様な楽器で、様々なジャンルの演奏をしていただくことができました。

「明治のピアノ」の音色や同級生の演奏を聴いた方たちには、伝統を感じさせられるピアノの重厚さ、発表者の真摯な気持ちで生き生きと奏でる音楽に引き込まれ、ともに楽しんで聴いていただくことができました。

今から110年以上も前、女子教育の必要性を強く訴えた岩垂校長の思いを偲び、今もこうして「明治のピアノ」が二葉高校に関係する方たちを繋いでいること、二葉高校のすてきな一面を改めて感じさせていただけたことに、感謝でいっぱいです。出演してくださった皆様、聴いてくださった皆様、開催に当たり、ご協力いただきました方々に心より御礼申し上げます。



明治のピアノと奏でるロビーコンサート

プログラム

第1部

- 1) ピアノ独奏
「楽しき農夫」「天国と地獄」 溝田祐貴(1年)
- 2) 歌とピアノ
「雫」 武居美幸(3年) 田垣歩実(3年)
- 3) チェロとピアノ
パラディス作曲「シシリアーノ」
箱田真奈美(3年) 箱田美保(保護者)
- 4) ピアノ独奏
ドビュッシー作曲「夢」 スカルラッティ作曲「ソナタK.19」
内山颯大(1年)
- 5) ピアノ独奏
「River flows in you」 白鳥樹(2年)
- 6) ピアノ独奏
スカルラッティ作曲「ソナタK.63 L.84 ト長調」
ベートーヴェン作曲「ピアノソナタ第4番第4楽章」
ドビュッシー作曲「喜びの島」
林芽吹(3年)

第2部

- 1) 独唱とピアノ
オペラ「ジャンニ・スキッキ」より「私のお父様」
ピアノ連弾 2人のピアニストのためのブルグミュラーより
「素直な心」「アラベスク」「牧歌」
多田みさき(47回生) 武田ひとみ(47回生)
- 2) ピアノ連弾 「J-pop メドレー」
伊藤綾音(2年) 篠原布弓(2年)
- 3) アコースティックギターとピアノ
「ひまわり」「メロディ」「あの教室から」
篠原一弘(保護者) 篠原弘介(70回生)
- 4) ドラムとピアノ 「Yesterday」「Blues in F」
佐藤雅彦(本校職員)&古畑玲(音大生)



在校生によるチェロの演奏(お母様の伴奏で)



同窓生(47回生)による息の合ったピアノ連弾



同窓生の皆さんも集まり応援!

親睦バス旅行 「安曇野で、癒しと宮沢賢治の世界に浸る親睦バス旅行」

晴れ渡った秋空の下、令和5年10月13日、総勢25名で、同窓会の親睦バス旅行を実施しました。安曇野の絵本美術館「森のおうち」と「ラ・カスタナチュラルヒーリングガーデン」の2カ所を巡りました。

「森のおうち」の訪問は、この時期行っていた宮沢賢治絵本原画展が目的です。私たちは団体のため、特別に読み聞かせをお聞き



することができました。一面、川上和生絵の「やまなし」原画で囲まれた中、学芸員の米山さんから「注文の多い料理店」の序文を静かに朗読していただきました。続いて酒井元館長から「やまなし」と「雨ニモマケズ」の朗読がありました。ろうそくの灯がともる部屋で二人の朗読をお聞きして、心はすっかり宮沢賢治の世界へ導かれました。

酒井元館長からは「森のおうち」を開館するまでのいきさつなどをお聞きしました。酒井元館長は現在85歳、開館して30年にな



酒井元館長のお話に耳を傾けて

るそうですが、もともとは信州大学病院の臨床検査技師だったそうです。絵本が好きで、若いころから絵本を集め、弟さんの薦めやご主人の理解もあって、安曇野の現在地に絵本美術館を建設したとのこと。「本が好き」というご自身の気持ちを大切に、美術館という大きな形にしてしまったパワーに、ただただ、感心するばかりでした。

「森のおうち」でおいしいランチをいただき、その後は館内を自由に見て回りました。宮沢賢治の世界が館いっ

ぱいに散りばめられており、帰際には皆、手いっぱい宮沢賢治の絵本などのお土産を手にしていました。

大町市の「ラ・カスタナチュラルヒーリングガーデン」には30分ほどで到着。このガーデンは、美しい水と緑あふれる北アルプス山麓の信州あづみ野(長野県大町市)の自然豊かな地で、ラ・カスタのブランドテーマである「植物の生命力と癒し」を五感で体感できるよう、令和5年5月にリニューアルオープンしました。町の一角に別世界を醸し出しており、受付に入った途端にいい香りに包まれました。ここでは様々な植物のエッセンシャルオイルを配合して自分好みの香りにする、調香体験もできました。コスモスやダリアなど秋の花やハーブが咲きそろう園内を散策し、歓談しながらハーブティーなどを飲み、ゆっくりとした時間を過ごしました。



自分好みの香りを調香

今回の旅行は県内を巡りましたが、時間に追われることなく、ゆったりとした癒しの時間を過ごすことができました。「森のおうち」で酒井元館長のお話を聞き、自分のために本を買い、自分の好きな香りのアロマを調合し、「自分の時間」を大切にできたとても充実した一日でした。



満足そうな笑顔で記念撮影(ラ・カスタ庭園前で)

同窓会の目的の一つである「会員相互の親睦と研修」を深めるための親睦バス旅行は、2年に1回行われています。今回コロナの影響も考え定員を最小限にしたため、総会と理事会での募集で、定員いっぱいになってしまいました。皆様、次の機会のご参加をお待ちしています。



二葉高校は今

魅力ある学校

諏訪二葉高等学校長
濱 勝彦

同窓会の皆様には日頃より本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、感謝申し上げます。令和5年4月に第35代校長を拝命しました濱勝彦と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

令和4年まではコロナ対応で、何かと制限が強いられる3年間でしたが、コロナ5類移行に伴いアクセルを踏んでいるところです。4年ぶりに地域に公開しました二葉祭は、2日間で3200人余りの来校者がありました。明治のピアノを使ったロビーコンサートも、現役の高校生に限らず、同窓生や親子での参加もあり、文化的な雰囲気の感じられるものとなりました。フィナーレで打ち上げられた花火は、生徒たちにとって一生の宝物になったと思います。

タブレット学習で手狭になった教室の机に取り付ける天板拡張くんが同窓会の支援で設置され、学習活動に非常に役立っております。教科学習は、従前の講義形式一辺倒から脱却し、グループワークやタブレットを利用した学びが進んでいます。更に探究学習では正解のない課題を他者と協働しながら、自分で考え、行動しながら課題に向き合うことを大切に組み込んでいます。令和5年度の入学生は、昭和62年の男女共学化以来はじめて男子の生徒数が女子の生徒数を上回りました。学校の教育目標である「自主・努力・感謝」のもと、「校則がない」「個性や自己主張の尊重」という伝統的な精神に誇りをもち、様々な活動を通して日々努力し、各自の夢や目標の実現を目指しています。部活動の加入率は95%で、多くの学校で部活動の加

入率が減少する中、本校は部活動も大変活発です。二葉高校を舞台に青春時代を謳歌する生徒たちを、同窓会の皆様より物心両面から支えていただき頭が下がります。

100周年の際に刊行された“二葉百年のあゆみ”の中の、初代校長岩垂今朝吉先生と生徒4人の逸話が目に留まりました。「おめえたちは、何か目印(校章)がなけりゃあ、諏訪高女の生徒たることがわからなきゃあ困るから、目印をつけたいというのかな。」「はい」「たとえ裸、裸足でいようとも、諏訪高女の生徒である品位は備えられている。そうしたところを心において先生一同は日夜教育に努力してきたがなあ」4人の生徒は、深く胸を衝かれて「私たちのとんだ心得違いでした」と謝罪するという逸話です。二葉の生徒たる矜持を感じるこのやり取りは、現代の世においても大切にしていかなければならないと思います。

本校は令和9年度に創立120周年を迎えます。在校生と同窓生を繋ぐ記憶に残る年にしたいと考えています。同窓生と在校生と交流が持てれば、在校生にとっても卒業生を身近に感じることができ、悩み多き高校時代の一助になるのではないかと考えています。2万有余の卒業生がいる本校。それぞれの学年のネットワークづくり、異なる年代を繋ぐネットワークづくり、人と人が二葉高校を介して、大きな繋がりがもてれば学校の魅力になります。

地域に愛される学校、地域から期待される学校であり続けるために、魅力ある学校づくりに職員一同邁進してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

長野県立高校再編について

令和5年1月に県立高校再編3次案が県議会で可決され、2030年に向けて高校の再編統合が進んでいきます。諏訪地区も「茅野・富士見」「諏訪実・岡工」「岡谷南・岡谷東」が統合され6校が3校になります。現在78校ある県内の県立高校が2030年には64校に減少します。令和5年の高校1年生数は全県で1万8千人を超えていますが、県内の0歳児の人口は約1万1千人と約7千人が減少します。流入や流出がありますので一概には言えませんが、諏訪地区の15年後の高校生の数はおよそ1千人。現在の諏訪地区の高校1年生の数が約1800人ですので、大きく生徒が減少していきます。本校という視点だけでなく、諏訪地区の高校の在り方が問われてきますので、同窓会の皆様方のお立場で今後この地域の在り方を話題にしてもらえれば幸いです。

少子化という言葉からくるマイナスのイメージではなく、フランスやドイツのように7千万、8千万という人口規模が日本においても適正規模と考えれば、プラス思考で地域を考えることも必要ではないでしょうか。



「今の二葉」

生徒会長

篠原 弓佳

今年は「Change」を目標に活動しました。コロナ禍で多くの制限がかかっていた高校生活を変え、先輩から引き継いだものを自分たちなりに変えてみよう—との意味が込められています。1年間を通し、どの行事もちゃんと行えるのは3年ぶりで、今までどのように行われてきたのか分からず、一からの思考でした。

音楽会は今までより早い6月になり練習期間も短くなってしまいました。そんな中でも各クラスが時間を作り、たくさん練習し本番に臨みました。3年生はもちろん、入学したばかりの1年生もすごい完成度で圧倒されました。

二葉祭は今までやったことのないことをやりたいと思い、役員で話し合いを重ねました。やりたいことを形にす

る難しさに直面し、悩みました。準備期間はテストに被り、全校が忙しい中でしたが、積極的に活動に参加してくれる姿を見てすごく嬉しかったです。当日は一部変更があったもののスムーズに進み、一般の方にも楽しんでもらったので良かったです。

9月の体育デーは全クラス対抗で、3年生が強いかと思いましたが、意外に1、2年生が強かったりして去年とは違った楽しさがありました。自分が出ない競技でも応援に行ったり、各クラスの団結力が見られました。10月のマラソン大会は、石彫公園をスタートし釜口水門で折り返す16キロのコース。諏訪湖一周ではなく折り返しで、すれ違う時に声を掛け合ったり、友達や部活の先輩、後輩の仲の良さが多く見られ、全員完走することができました。

多くの行事を通し、二葉生は各行事に真剣に取り組み、全員で協力し色々なことを成功させていく力があると思います。生徒会長として全生徒を見守ることができ、生徒会の中心として活動できたことはとてもいい思い出です。



素敵な二葉祭

二葉祭実行委員長

宮坂 日和

今年の二葉祭は4年ぶりの一般公開でした。二葉祭のテーマは「Infinity」になり、企画を考え始めたのは去年2月。漫画やドラマなどのキラキラしている文化祭を作りたいとテーマが固まってきました。しかし現実はそのような簡単にはいきませんでした。一般公開とは言ってもコロナがなくなっただけではありません。どこまでができる企画なのか分からず、たくさん悩みました。そんな時、助けてくれたのが役員の人々でした。みんなたくさんの意見を持ってい

て、たくさんアドバイスしてくれて、なんとか企画や日程などを形にすることができました。あとは、全校の皆さんと一般公開で来てくださる方に楽しんでもらうだけだ、そう思っ

て文化祭当日を迎えました。
朝、登校するとき不安でしたが、二葉祭が開催されると学校中に笑顔が溢れていて、すごく嬉しかったし安心しました。更に文化祭が終わったあとも友達から「楽しかった」「最高だった」と、言ってもらえて、努力が報われた気がしました。テーマに込められている「無限の可能性」を際限なく発揮できたのではないのでしょうか。

実行委員長になって努力をすることにどれだけ意味があるのかがわかりました。本当に素敵な経験をすることができました。ありがとうございました。

クラブ活動 大会参加報告(北信越大会以上)

令和4年度	北信越高校総体	
	[陸上] 両角 駿介…棒高跳13位	
	上村 文寧…走高跳14位	
	箱田真奈美…三段跳18位	
	[水泳] 青木 海誠…50m自由形30位	
	早田 海月…800m自由形21位	
令和5年度	[新体操] 団体競技…6位	
	全国高校総体(インターハイ)	
	[スケート] 和田 咲菜…1000m23位	
	1500m24位	
令和5年度	全国高校選抜スケート大会	
	[スケート] 和田 咲菜…1000m28位	

令和4年度	北信越高校新人大会	
	[陸上] 上村 文寧…走高跳3位	
	原 千惺…5000m競歩6位	
	[弓道] 矢沢 敬大…個人戦出場	
	全国選抜大会	
	[弓道] 矢沢 敬大…個人戦出場	
令和5年度	全国高校総合文化祭	
	朗読部門出場 鎌倉早百合	
	北信越高校総体	
令和5年度	[陸上] 上村 文寧…走高跳7位	
	原 千惺…5000m競歩12位	

令和5年度	[水泳] 青木 海誠…50m自由形28位	
	[新体操] 団体競技6位	
	全国高校総体(インターハイ)	
	[少林寺拳法] 伊藤 蒼奈…個人戦出場	
	[スケート] 和田 咲菜…1000m24位	
	1500m26位	
令和5年度	全国高校選抜スケート大会…	
	[スケート] 和田 咲菜…500m19位	
	1000m22位	
令和5年度	北信越高校新人大会	
	[陸上] 原 千惺…5000m競歩7位	

2学年(1学年)の「哲学対話」の取り組みについて

2学年主任 田村 博宣

2学年では昨年度から「哲学対話」の取り組みを行ってきました。前学校長の浅井先生より、他校で行われている「哲学対話」を本校でもやってみないかというお話がありました。新教育課程では探究的な学習に重きを置くことが確認されましたが、本校生徒の特長として、アウトプットが苦手、探究活動のやり方がわからないなど課題を抱えている生徒が少なくない状況があるということで、その改善のために「哲学対話」を実施することになりました。

「哲学対話」とは、身近な“問い”から出発して、グループで一緒に問い、考え、話していくものです。また、共に話すことを通して協働で思考を広げ、深めていくものです。

長野県立大学の馬場智一先生を講師にお迎えし、1年次に2回、2年次に2回実施しました。

【1回目】2022年8月29日(月) 4名×60グループ

内容：前半 グループ内自己紹介(名前・幸せな時間・起きた時間)→人生質問すごろく→哲学おしゃべりカードを使った質問ゲーム

後半 講義：「問いと質問の違い」→ワーク1：人生すごろくの質問をつくる→ワーク2：人生に関わる問いをつくる→「哲学対話」：人生に関わる問いをグループ内で1つ選び話してみよう→質問や問いや対話をどう学校生活に取り入れるか

【2回目】2023年3月16日(木) 6名×40グループ

内容：前半 前回の振り返り「対話をする意味」→質問ゲーム「よく行く場所」→「理由ある反論」(AはBではないなぜなら・・・)

後半 友情についてフリートーク(友情の定義・友情の具体例・友情の反対概念・友情に似ているが別のもの・歴史上の友情・動物に友情はあるかなど)→講義：「アリストテレスにおける友情」→問い出し(グループで対話したい「問い」を一つ選ぶ)→「哲学対話」

【3回目】2023年5月18日(木)

1・2年生合同 480名 6名×80グループ

内容：1年生3名と2年生3名で6名グループを作り「哲学対話」を行った。経験のある2年生がリードして1年生がスムーズに対話に参加することができた。

【4回目】2023年10月10日(火) 6名×40グループ

内容：2年生最終回 まとめの回：動画視聴「嘘をつくのは悪いこと?」→先生方が生徒の前で動画の内容を踏まえて「対話」→接続詞ゲーム「AはBだなぜなら・・・」→「哲学対話」→自分の探究のテーマを発表し、他の生徒が質問(ブラッシュアップ)

4回の実施を終えて、自分の考えを述べたり、他の人の考えを聞いて考えを深めたりという経験ができ、お互いの考えを尊重する態度や、視点を変えることの必要性などを体感できたと思います。今後の探究学習に活かせるものと思います。



学校職員の異動

【令和4年度末転出】

浅井 秀俊 (校長) 総合教育センター	草野 太亮 (理科) 大町岳陽
間宮由美子 (国語) 岡谷工業	堀口 翔太 (保体) 伊那養護学校
堀内 哲男 (地公) 松本蟻ヶ崎	田畑 静夫 (英語) 辰野
大森 俊司 (数学) 諏訪清陵	吉村 朋子 (英語) 富士見
伊藤 光宏 (理科) 松本美須ヶ丘	佐藤 雅彦 (英語) 塩尻志学館兼務
山岡 翠 (理科) 市立長野	

【令和5年度転入】

濱 勝彦 (校長) 篠ノ井	芦田 俊雄 (理科) 岡谷東
鎌倉 美月 (国語) 諏訪実業	五味 春道 (保体) 諏訪実業
坂口 佳啓 (地公) 箕輪進修	山岡 祐司 (英語) 上諏訪中学校
宮崎真悠子 (数学) 新採用	
今井 なぎ (数学) 富士見	
田路 泰志 (理科) 野沢北	

【令和5年度末転出】

戸谷 良住 (教頭) 喬木中学校校長	赤沼 京子 (音楽) 須坂
湯野 寛隆 (国語) 池田工業	小林 陽子 (英語) 丸子修学館
堀内 誠 (国語) 大町岳陽	佐藤 雅彦 (英語) 松本深志
平澤 賢 (地公) 長野西	
濱 好治 (地公) 退職	
大口 雄也 (理科) 伊那北	

【令和6年度転入】

功刀 裕 (教頭) 長野	矢澤 正章 (理科) 赤穂
溝口 愛 (国語) 下諏訪向陽	久松 俊雄 (理科) 富士見
成田 隆 (国語) 松本蟻ヶ崎	齋藤 七夏 (音楽) 飯山
篠崎 元太 (地公) 新採用	小林 蓮 (保体) 新採用
池上 親次 (地公) 長野日大	伊藤 恵子 (英語) 塩尻志学館
山崎真佐男 (地公) 岡谷東	

大学合格状況一覧

(令和3年度～令和5年度、合格延べ人数、浪は3年分の過年度生合算)

令和5年度は3月18日現在

国立大学	令5	令4	令3	浪
北海道	1			
北海道教育			1	
室蘭工業				1
山形	1		1	
福島		1		
筑波	1			
茨城			1	
宇都宮		1		1
群馬		1		
埼玉		1	1	1
横浜国立		1		
上越教育	1		2	
新潟			2	2
富山	2	1	1	1
金沢	1		2	
福井		1		
山梨	7	4	2	
信州	7	11	16	2
静岡	1		1	1
鳥取	2			
島根			1	
徳島	1		1	
九州				1
宮崎		1		
琉球			1	
合計	25	23	33	10

公立大学	令5	令4	令3	浪
秋田県立	1			1
群馬県立女子		1		
高峰経済	2	4	1	
前橋工科		2	1	
埼玉県立			1	
東京都立		2		
横浜市立	1	1		
新潟県立	1			1
長岡造形		1		
富山県立		1		
福井県立	1			
都留文科		5	2	
山梨県立	1	7	3	
公立諏訪東京理科	3	2		1
長野	5	5	4	1
長野県看護	3		1	
長野県立	5	4	4	
静岡県立	1		1	
愛知県立	1			
滋賀県立		1		1
兵庫県立			1	
岡山県立			1	
合計	25	36	20	5

私立大学	令5	令4	令3	浪
石巻専修			1	
東北工業			5	
秋田看護福祉			1	
国際医療福祉			1	
白鴎			1	
桐生		1		
群馬医療福祉		1		
群馬パース		1	1	

私立大学	令5	令4	令3	浪
高崎健康福祉	1	1		1
埼玉医科		1		
埼玉学園			1	
埼玉工業		3		
十文字学園女子	1			
淑徳	2			
城西	2	1	1	
尚美学園			1	
女子栄養	1		2	
駿河台	1	1	4	
東京国際			3	
東都		1		
獨協	11		1	
日本医療科学	2	3	3	
文教	4	8	9	
江戸川			1	
神田外語		2	2	
国際医療福祉	4			
城西国際	2			
千葉科学	2		1	
千葉工業	22	3	6	7
東京情報			1	
東邦			1	
明海	2			
麗澤		1	4	
和洋女子			1	
青山学院		2		
亜細亜	6	3	1	
跡見学園女子	1			
桜美林	6	9	3	
大妻女子	4	1	1	
学習院	4			
杏林	2	8	1	1
工学院	1	2	1	
國學院	5	3	2	
国士館	2	2	3	
駒澤	11	7	4	1
駒沢女子	1	2		
実践女子	2	1	2	
芝浦工業	2	5	1	
順天堂	1	2	5	
昭和	3			
昭和音楽			2	
昭和女子	1	2	2	
昭和薬科			1	
白百合女子	3			
成蹊		1		
成城			2	
聖心女子			1	
清泉女子		1		
聖隷クリストファー				1
専修	10	9	13	1
創価		2	2	
大正大学			1	
玉川		2	1	
大東文化	4	10	6	
拓殖	2	4		1
中央	1	1	1	1
津田塾	2			
帝京	2	2	3	2
帝京科学		1	5	

私立大学	令5	令4	令3	浪
帝京科学		1	5	
帝京平成	2			
東海	2	2	10	
東海学園	2			
東京医療学院	1		1	
東京医療保健		1		
東京家政	2		2	
東京経済	2	4	3	2
東京国際工科専門職			1	
東京未来	1			
東京工科	1	4	4	3
東京女子	1			
東京造形	1			
東京電機	5		2	
東京都市			2	
東京農業		2	4	1
東京薬科	1	1		
東京理科	2	1		1
東洋	21	6	19	7
二松学舎	2	1	1	
日本	11	9	15	4
日本女子		1		
日本文化	1			
文化学園			1	
法政	3		7	
武蔵	2		1	
武蔵野	8	7	4	
明治	2		3	1
明治学院	8	5	2	
明星	4	8	3	4
立教	1	1	5	
立正		4	4	
麻布	1	1	2	1
神奈川	19	12	9	4
鎌倉女子			2	
関東学院	6	5	4	
北里	3	1	1	1
湘南鎌倉医療		1		
湘南工科				2
洗足学園音楽	1	1		
神奈川工科	7	3	1	1
鶴見		1		
桐蔭横浜		1		
東洋英和女学院		1		
新潟医療福祉	5		3	2
金沢医科	1		1	
金沢学院		1		
金沢工業	5	4	2	5
福井医療			1	
健康科学	3	2	1	
山梨学院	5	10	4	
山梨英和	1		1	
佐久	2	3	2	2
清泉学院	3	3	1	1
長野保健医療	4	5	4	
松本	10	11	21	1
松本看護	4	4	2	
松本歯科	1			
岐阜医療科学	2		2	
岐阜聖徳学園	2		2	
岐阜女子			1	

私立大学	令5	令4	令3	浪
岐阜保健	1			
静岡福祉			1	
常葉	1	3	4	
愛知		1	1	
愛知学院	5	6	7	
愛知淑徳	3	5	3	
愛知工科		1		
愛知工業	2	2	2	
一宮研伸		1		
岡崎女子			1	
金城学院			1	
星城	1			6
中京	10	4	6	
中部	9	1	10	
名古屋音楽	1			
名古屋外国語	1	2		
名古屋学芸			1	
名古屋経済	1			
名古屋商科		1		
名古屋学院		1		
名古屋文理			1	
南山	1			
日本福祉	4		1	
人間環境	1			
藤田医科		1		
日本赤十字豊田看護		1		
名城	6	10	2	
皇学館		1		
鈴鹿医療科学			1	
長浜バイオ			1	
京都芸術		1		
京都産業	5	8		
京都女子	1			
京都精華	1			
京都先端科学		1		
京都橘			1	
同志社	2	1	1	
同志社女子		1		4
仏教	1	2	1	
立命館	3	6	7	
龍谷	6	6	1	1
奈良		2		
大阪経済			1	
大阪芸術			5	
大阪工業	1		1	
大阪電気通信	1			
近畿	3	2	3	
関西外国語	2			
関西		1		
羽衣国際		1		
阪南		1		
甲南女子			3	1
武庫川女子			2	
関西学院	2	1		
関西国際	1			
神戸芸術工科		1		
兵庫			1	
岡山理科		1		
福山			1	
徳島文理		1		
福岡工業	1			
合計	381	315	347	

特集「私の歩む道」

5人の同窓生に在学時代の思い出、卒業後の歩み、二葉への思いなどをインタビューさせていただきました

諏訪郡下初の女性校長
小口 晴子 さん
(高校3回)



長野県は女性教師の比率が非常に低く、ましてや女性校長など望むべくもない時代。昭和55年、県下初の女性校長は事前に新聞報道が漏れ、当該市町村から着任を拒否されるという事態が発生したが、なんとか受け入れ先が決まり、ようやく女性校長が誕生したという時代。また、出産・育児などに関わる処遇はほとんどなく、妊娠すれば退職するのが当たり前のようだったこの時代に、子どもを産み育て、諏訪郡下初の女性校長として、後に続く女性教師に道を拓いてこられた小口晴子さん。「退職女性校長研修会」におじゃまし、富士見町でお話を聞きました。

昭和26年卒業ですが、二葉高校に入ったころは、どんな時代でしたか。

敗戦による学制改革

終戦間近の時代です。昭和20年3月、国民学校(小学校のこ)6年を卒業し、諏訪高等女学校を受験、合格しました。口頭試問で「国体とは、どういうことか」と聞かれたことを覚えています。昭和20年4月、諏訪高女に入学するも、まもなく敗戦による学制改革で、諏訪二葉高等学校併設中学生となり、3年間学び卒業しました。昭和23年4月諏訪二葉高校に入学し、高校生として3年間学び、昭和26年3月に卒業しました。諏訪二葉高校の3回生になります。

戦時下における学校生活

昭和20年3月、国民学校を卒業。修学旅行も卒業写真もないという小学校時代でした。4月、高等女学校に入学

しました。憧れだったクリーム色の校舎の外壁は、薄黒く塗られていました。一条乱れずの整列や行進、薙刀の訓練等、軍事教育一色でした。学有林から引き出してきて薪を作り、固い校庭を耕し、芋等を作りました。何の疑問も抱かず、政策のまま生きたあの時代を振り返る時、軍国主義一色による政治の恐ろしさを痛感します。



太平洋戦争中黒塗りされた校舎

昭和20年8月15日 終戦(敗戦)を迎える

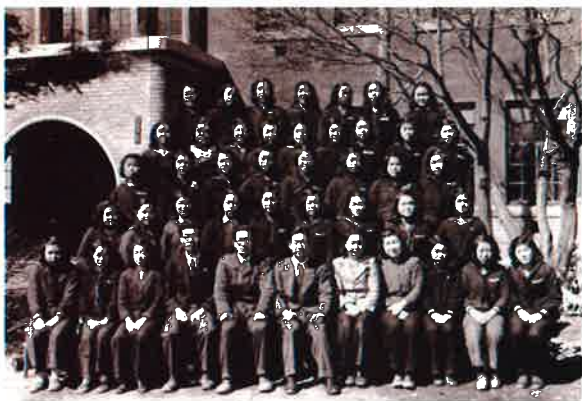
終戦となると、校長先生をはじめ、昨日まで「アメリカの兵隊が来たら、薙刀でやっつけろ」と言っていたのに、言うことががらりと変わってきました。教科書は、「国体」「神の国」「アメリカを悪く言ったところ」などの箇所を墨で黒く塗らされました。生徒は、がらりと変わった体制にのまれ、流されていたように思います。先生方も苦しかったことでしょう。ただ、体制が変わったからと、がらりと変わるのはいおかしい。本当に自分の信じるものを持っていかなければいけないと思いました。



『生物・全』中学校・高等女学校・実務学校理科用
(B5判・19年文部検定済)
『写真でかたる 二葉百年のあゆみ』より

我が家の家庭事情

父は昭和12年、日支事変開戦間もなく召集令状(赤紙)により出征しました。36歳でした。残された家族は、持病を持つ70代の祖父母、母(33歳)、子ども4人(13歳、10歳、7歳、4歳の私)の7人。父の帰還を待ちわびながら懸命に暮らす我が家に届いたのは、「昭和13年7月26日戦死す」との公報でした。中支を流れる揚子江の支流を輸送艦で渡る時、魚雷に触れ撃沈されたのです。37歳。男手を失うということは、農家にとって致命的でした。母は一家の大黒柱として、小さな体で働きに働きました。母の指示を受け、子どもたちもよく働きました。学校の休みの日は、田畑を手伝う日でした。お国のために戦死した夫の「名誉」を背負い、それを汚すことのないようにと全力で生きた母。父の戦死の報を聞いた時も、人前では決して涙を見せなかったと言います。



二葉高校の正面玄関で(3列目右から2人目)

卒業後教師の道に進みましたが、どうして教職を選んだのですか。

当時は「先生」は尊敬の対象でした。母の世代は、「恩師の影を踏んではいけない」と尊ばれる存在でした。姉が女子師範を出て教師として活躍していた影響も受けました。教育学部に入ると奨学金をいただけることも魅力でした。若くして夫が戦死し、男手のない中で百姓仕事に生きる苦労を骨身にしみて味わった母は、「子どもたちには、身に職をつけ、自立して生きていく力をつけてやりたい」と願い、貧しい中から懸命に教育してくれました。本当にありがたいことです。

数学の世界では、「諏訪に小口晴子あり」と言われていましたが、なぜ数学を選んだのですか。教師になってからのことを教えてください。

昭和35年、3校目の学校に転任しました。担任は1年生で、教科会は数学科と決まっていました。それまでの私は、教科書は「絶対」のものであり、教科書をよくわかるように教えることを良しとする教師でした。ところが、ここでの教科会は従来の指導の在り方の反省の上に立ち、整数・小数・分数の乗除を一貫させた考えで指導するという新たな系統を創り出そうとしていました。教科研究会は、主任がリーダーシップをとり、実に鋭く内容の深いものでした。そこには年齢の上下も、性別の違いもない。あるものは、より本質を求めて究明し、子どもの実態に合った指導系統と指導案を創り出すことだけでした。一人の教師として立つために、甘やかされることなく、愛と責任をもって厳しく育てていただいたことは、自信となり、教師として生きる基礎が作られたと思います。

女性教師としての苦労は、ありましたか。

高島小学校で、1年生を担当した時、お母さんたちから「なんでうちの担任は、女なのか。5組あって、他は男の先生。なんでうちだけ女の先生に教えられなければならないのか」という声が聞こえてきて、悲しかった。そのうち、次第に聞こえなくなりましたが。

10月に研究授業は無事終わりました。翌年1月、医師から妊娠したことが告げられました。当時の牛山校長先生に、「子どもができたから辞めます」と伝えました。当時は当たり前のことでした。校長先生はじっと考えておられましたが、「俺は、先生には教師を続けてもらいたいと思う。うちで、お母さんとご主人と相談して、もう一度来てほしい」と言われました。高校の教師をしていた夫は、一生懸命やるなら協力したいと言いました。明治生まれで、責任感の強い母は、校長先生の家へ相談に伺いました。母は「子供がありながら無理ではないか。父兄に申し訳ない。どうしたらいいか相談にあがりました」と校長先生にお聞きしたところ、校長先生は「晴子先生には、教師としてやってもらいたい。お母さんも、晴子先生が先生として立派にできるよう応援してほしい」と、こんこんと言われたとのこと。母が帰ってきて「校長先生に諄々と言われ、『やります』と、言ってしまった。いい加減なことはできない。子供が立派に育つように、教えている子に不利にならないよう見るつもりだから、一生懸命やりなさい」と、逆に励まされました。

産休が、産前産後にわずかしかなかった時代。ましてや育休など皆無。産休に入る前に、他県から学校訪問に来ていた先生から「お腹の大きい人が、夜8時過ぎまで教科会に参加していて、大丈夫ですか」と言われました。しかし、いい加減なことではできないという気持ちでした。担任が2か月休むことで、周りにいろいろ言われなにか心配でした。

子どもが生まれ産休明けには、母乳が出るが絞って捨てました。ただ、養護の先生が良い先生で、保健室の個室で絞らせてくれました。母がお昼休みに子供を連れてきてくれ、母乳を飲ませたりもしました。乳飲み子を抱いて母が帰っていく後ろ姿を見るのが辛かった。

女教師として先頭切ってやっていた時、後に続く先生のことを考えましたか。

父母がどう考えるのかと心配すると共に、女の先生はダメだと思われてはいけないという気持ちは強くありました。あの時代、普通の校長先生なら、やめろと言っていたと思います。女は結婚すれば家に入る。子どもができれば退職という時代。ただ、牛山校長先生は、信濃教育会で海外の学校視察をされていて、「しっかりした先生は男だから、女だからではない。女だからと引っ込んでいちゃいけない。言うべきことを言って、心を込めて人を育てるべきだ」という考えでした。

性別に関係なく人を育てようとする先輩、いろいろな先輩にお世話になりました。次に続く人たちに、先輩の思いをつなげていかなければいけないと思いました。



担任したクラスの子どもたちと(後列左)

教師を続けてよかったことは、何ですか。

90歳になる今でも、教え子が1週間に2回くらい手紙くれます。その子も今は70代。先生が元気でないとイケな

い、元気でいてほしいからと。銭湯で聞いた会話とか、今の言葉の使い方がおかしいとか。忙しいときは、はがきで。令和5年5月5日には、「ごーごーごー」の消印があるはがきを送ってくれました。それらは、私の生きる喜びとなっています。コロナ禍で、3年ほど開催中止となっていますが、同級会も年一回開かれていました。嬉しいことです。

後輩に期待すること、伝えたいことをお願いします。

高校時代は、教師になりたいとは思っていませんでした。毎日の授業にはまり込んでいく中、教師が変わると子どもが変わっていくという喜びの体感を重ねることにより、本当に教師を続けたいと思うようになりました。

二葉高校には実力があり、憧れる先生方がいました。先生自体が勉強しておられた。いいなと惹かれました。子どもに憧れられる先生でいてほしいと思います。

簡単にあきらめずに、自分の願いに向かって、しつこいくらい求めていく精神力を持ってください。それには、いい仲間・友達・心から尊敬し、話せる人を持つことです。

地域はもちろん、日本や世界の状況や政治動向に関心を持って学んでいきたいものです。

そして、これからも、自分の信条である次の二点を心して生きていきたいと思っています。

○自立(自律)→「私はこう考える」と自分の意見を持ち、行動する。

○共生→異質なものを受容する心(心を込めて聴く・話す)

「インタビューを終えて」

90歳の現在も様々な研修会に顔を出し、「学ぶ姿勢」を後に続く者に示している姿に敬服します。戦時中という大変な時代を生き抜いた強さ、苦勞を苦勞ともしないしなやかさは、今も健在です。お話をお聞きし、小口晴子さんの人柄やたゆまぬ努力の姿勢が、逆境を跳ね返し、周りの人から信頼される源になっていると感じました。貴重なお話、ありがとうございました。



諏訪市長

金子 ゆかり さん

(高校29回)



金子ゆかりさんには、諏訪地域の新聞紙面で週1回はお目にかかるのではないのでしょうか。二葉高校時代は生徒会長を務めていて、その「雄姿」をよく知っている者としては、市長としての現在のパワフルな活動は、十分うなずけます。「うーたん(高校時代の愛称)、頑張れ」と、思って記事を読んでいます。

第一線で活躍している金子さんに、同じ29回生の武居と大石が公務の合間を縫って、お話を聞きました。

新聞に諏訪市の女性登用率向上に向けての取り組みが載っていました。

市長になって2期8年でも、市役所の中で女性が委員会に占める割合が35%の壁を越えられず。3期目こそはと、記事のように「市設置の委員会、審議会に占める女性委員の割合について、2025年度に40%達成」と宣言しました。壁の原因は選出基準。そこで、その審議会等の事柄に通じている方ならば、なるべく女性を参加させてもらいたい。その会議に出席することがその人の経験にもなり、組織に戻って報告することも経験になります。「私なんか…」からの脱却。世の中、男女半分ずつですから、まずは数で壁を取り払い、働き方改革にもつなげながら男女の縛りのない、自由な社会を目指したいと考えてメッセージを発しました。

様々な分野で女性管理職の割合を上げようと努力がなされています。市長としてどのような考えでしょう。

阿部知事が「女性に選ばれる長野県の会」を作り私も早速、参加しました。女性が遠慮する背景に何かあるのか。一つは、私たちの生きてきた慣習の中で、男性が家のことは女性に任せ、残業も時間外の交流など仕事一本でやってきたことです。女性の社会進出が可能になって

きましたが、役職に就いた時に、そのような働き方では女性は尻込みしてしまう。「部長観」「社長観」を変えていく必要があります。残業しなくても、日曜日のすべての会に顔を出さなくても「社長」はできる、と時代に合わせて変えていくことが不可欠です。

近年、男性の育休取得率は少し上がってきました。1週間か2週間は、よく取っている。ある銀行などは「一分単位で取得可能」「育休取得率100%にする」といった施策を推進しており、男女共同参画は、社会全体の動きになっています。登用率の背景には「働き方改革」が同時に進行していなければなりません。男女ともに、育休を取り、趣味など自分の時間を作り、職場では休暇者のフォローをし合う仕組みが必要です。

記事を読んで「ゆかりさん、頑張っているな」と思いました。35%でもすごい数字です。

就任した当時は35%でした。2年後35.8%。35%の辺りをウロウロしていました。就任当時「40%超えないと印鑑を押さない」ということも可能でしたが、反感を買ってはいけないと、スロースタートで始めました。まだ越えていませんが、徐々に理解が増えてきている。ただ、数字だけが目標ではなく、数字を達成する先に男女関係なく自分の能力を発揮できる社会になることが目標です。日本に染み付いた壁を除去していく手段として、数値目標があると理解してほしいと思います。

諏訪市文化センター改修で、文化の象徴を大事にしていかなければという思いがありますか。

あります。世の中が豊かになるために必要な行政課題は、環境、交通、インフラ、福祉、教育…やるべきことは、たくさんあります。その時代の中で優先されるものがありますが、例えば20世紀の戦後は「産めよ、殖やせよ」と復興の政策、経済の高度成長期の後、バブルの崩壊。そうした時代を越えて俯瞰する時、後世に残すべきもの、そして皆に残されて価値が高まるもの、文化財といわれるものにはそうした価値があると思います。

また、地方行政が補助金頼みになり過ぎると、補助要件に合わせたため、地方の風景が独自性を失い、どこを切っても同じ顔が出てくる「金太郎あめ」のような地方ばかりになってしまうことが残念。世界中を見てみると、

フィレンツェの赤い屋根、ロンドンの低層ビル、パリの色彩規制、日本では山陰の石州瓦など。それぞれの良さは地域で培ったもので、人と一緒です。地域にもアイデンティティーがあり、良さを認めることが大事だと思っています。アイデンティティーをどう感じるか。自然、歴史、文化、その土地らしさ、諏訪ってこんな所、ここの魅力は…。培ってきた芸術・文化は、ただあるわけではありません。

文化センターは、旧東洋バルヴの福利厚生施設として、建築分野の文化勲章受章者として日本で7人しかいない建築家・吉田五十八が設計し、緞帳は東山魁夷と杉山寧で、ともに日本画家の文化勲章受章者の作品です。それらを日本で最大級の緞帳に織ったのは京都の川島織物。一級品です。片倉館も片倉興産が社員の福利厚生温泉施設を、海外を模して作ったもので、今では重要文化財となりました。西の道後温泉と東の片倉館が、温泉施設としては僅か二つの重要文化財です。

諏訪にはそういう宝があることを素晴らしいと思います。文化財は、残せば残すほど価値が上がります。しかし、市民の覚悟がいります。お金がいります。議論はありましたが、8月の臨時議会で基本設計予算を認めていただきましたので、さらに市民の理解を進める活動を続けていきたいと思っています。そして地域の歴史、産業、文化を伝える宝として、大事にしていきたいと思っています。

政治の道に進んだのは、二葉の時から思っていたことですか。

卒業時のクラスメートの寄せ書きに、「うーたんは、政治家が向いている。国会議員になれ」と書いてありました。生徒会長をやっていたから、そう思われたのかもしれませんが。政治には関心がありましたが、高校の時は、はっきりなりたいとは思っていませんでした。大学は慶応義塾大学政治学科を選びました。社会一般、世の中のことなど、いろいろな分野を学べるという理由からです。教職免許も取りましたが、卒業して東京で服部セイコーに就職しました。

政治家になったきっかけは、母の病気です。36歳の年、母は余命半年と宣告されました。父は県議会議員。家族会議をして私がこちらに帰ってくることになりました。会社を辞める決断はしましたが、海外業務もあり仕事をバリバリ楽しくやっていたので、後ろ髪を引かれる思い

でした。母の病気には、治療方法を模索し悪あがきをしましたが、半年で亡くなりました。突出した薬を使う道もありましたが、母をモルモットにすることになるかもと論され、最後は納得して（本当は納得なんかできませんが）…。父が一人になり、仕事のサポートをする必要があり、父の秘書になりました。お茶くみ、電話番、運転手。きっかけは、母が亡くなり田舎に戻ってきたことです。

秘書はしていても県議会議員になったり、市長になるには「思い」がないと飛び込めないと思いますが、きっかけはあったのですか。

父は諏訪市役所職員でした。市の理事者や、議会の仕事などで父の働く後ろ姿を見ていました。毎日、公民館で夜7時から会議で、夜中に帰って来たりしていました。災害の後には、河川整備や橋の架け替えなどの仕事もしていました。高速道路を通す時も。日常の中で父の後ろ姿を見ていました。選挙の手伝いでは、母が頭を下げ、お願いしている苦勞も見えてきました。叔父、祖父は茅野市議会議員で、全く違う世界へ行くという感じではありませんでした。もちろん、応援してくれる人がいなければ、自分でやりたいと思ってもできないことも学びました。



高校時代、仲間と共に(2列目右から4人目)

市長としての「お話」が素晴らしいと聞きますが、心掛けていることはありますか。

例えば卒業式の挨拶は、その学校のことを調べて、事前に作ってくれたものがありますが、私のみんなに対するメッセージとして伝わるのかなと考え、用意してもらったものから脱線したりもします。話の中に、普段思っていることを織り交ぜて話をします。例えば宇宙の話。自分が好きで、おしつけだけれど、みんなに伝えたくて。自分が

感じたり、見たり聞いたり読んだりして、胸に落ちたことを伝えるようにしています。

頑張っている人を見ると、またみんなが頑張れます。「二葉」に向けて、どんな思いを持っていますか。

質問事項に「二葉で過ごした時代はどんな学生だったか」とありますが、私の二葉の時代は伸び伸びしていて奔放でした。無理もせず、飾ることなく、叱られる時は叱られたけれど、先生たちも自由にさせてくれ、クラスも楽しかった。ローリングストーンズが好きな友人が、物まね芸を教壇でやってくれるなど、楽しい日々でした。学校目標の「自主・努力・感謝」は、今でも体に染みついています。

「感謝」は大事なキーワード。この学校の良さです。同窓会理事をやらせてもらった時、この組織すごいと思ったことがあります。その時の同窓会長に「これを目標にするので、これらをやってきてください」と言われました。世の中一般、このような時にやってくる人は、だいたい半分くらいなのに、二葉の同窓会理事さんは、完璧に近かった。同窓会はすごいと思いました。こういうところに3年間いたんだなと思いました。また、同窓会総会で、高女時代の先輩が90歳で手を挙げ、発言する姿がありました。高女の皆さんの気概と矜持、誇り、プライドを感じました。こういう先輩がいてくれたからこそ、私たちもしっかりしなければいけないと思いました。先輩に「何やっているの」と言われるお陰で、今もシャキシャキしなくては、と励まされているように感じます。

二葉の生徒や後輩の皆さんに伝えたいメッセージをお願いします。

「地球市民」になってほしい

私は宇宙が好きです。果てしない宇宙に浮かんでいる地球は、ただ一つの私たちのふるさと。私たちの命を守ってくれている温室、それを大切にしてほしい。私は向井千秋さん、油井亀美也さんのファンでもあり尊敬しています。向井さんの講演会は、一番前の席で聴きました。生まれ変わったら、宇宙飛行士になりたいと思うほどです。

宇宙ステーションから撮った地球の写真は、白い渦巻き模様のある、青い大理石のようです。宇宙ステーションの周りには、マイナス270度。ボイジャー2号がそんな宇宙の果てに向かって太陽系を離れる時、地球からの信号に

応えて、振り返って撮ってくれた写真があります。太陽を中心に惑星が並んでいました。

地球は奇跡の星です。これに対して人類は、温暖化、戦争など自分勝手な思いでやっている。温暖化を止めないとそのツケは自分たちに返ってくる。私たちの大切なゆりかごを守ることは「地球市民」として大事な責任です。どこかのどんな場所にいても、どんな職場にいても「地球市民」になってほしいというのが、私からのメッセージです。私が宇宙を好きなのは、そういう視点をもらえるからです。

「自主・努力」の精神で

二葉で学んだことは「勉強」と言っても「自主」です。自分がやりたいこと、身につけたいことを、先生方が語ってくれる中からくみ取る。人から与えられたものは「勉強」ではありません。これからは、記憶することや計算はコンピューターがやってくれます。私たちの時代に鍛えた脳とは違う「筋力」を使わなくてははいけません。コンピューターを生み出したのは人間の脳です。人間は、人間としてやるべきことがある。どういうコンピューターを作るか。どういうところをサポートしてもらうか。そこまで考えて「自主・努力」の精神で勉強に励んでほしい。そして、最後は自分らしさを磨いてほしい。できないことのほうが多いのが人間です。65年間勉強してきても、私は自分が知っていることしか知りません。知らないことを他の人がいっぱい知っています。知らないことがいっぱいあっても、それが普通。自分を信じて、自分がやりたいことをみつけて頑張っているしてほしいです。

「インタビューを終えて」

二葉のころと同じ気さくさでしたが、市長としての展望や夢も語っていただき、大きな勇気と激励をいただきました。これからも課題山積ですが、市長として理想に向かい邁進されるよう祈っております。



長野県立美術館 館長
元公益財団法人
アーティゾン美術館
副館長

笠原 美智子 さん

(高校28回)



この4月から長野県立美術館の館長に就任された笠原美智子さんは、二葉の28回生です。

東京都写真美術館の立ち上げに加わり学芸員の道に進みました。2018年に日本有数の民間の美術館であるアーティゾン美術館(旧ブリヂストン美術館)の副館長として迎えられ、手腕を振るわれてきました。笠原さんのこれまでの歩み、そしてこれからの目指していく姿について、昨年11月にアーティゾン美術館でお話を伺いました。

二葉時代の思い出についてお話を聞かせてください。

高校時代の思い出と言えば、バンドを組んでいて仲間とロックを演奏していたことですね。キーボードを担当していました。女子校独特の雰囲気あまり好きではなかったんです。レッド・ツェッペリンとかクイーンとかプログレッシブロック、ハードロックが好きでした。

入学した薬科大学を1年半で辞め、別の大学に入学されたそうですが、なぜでしょう。

薬局の娘だったので薬科大学に入学しましたが、1年の前期で授業について行かなくなってしまったんです。私は3姉妹の長女なのですが、幸い妹が後を継ぐことを引き受けてくれ、私は薬科大学を辞め1年浪人して明治学院大学に入学しました。

大学卒業後、シカゴのコロンビア大学大学院に進みましたが、なぜアメリカに留学されたのでしょうか。

明治学院大学社会学部では社会の周縁などを学んでいました。83年の卒業でしたから、女性が就職することは

難しい時代で、日本で大学院に行くか、アメリカの大学院に行くかしかなかったんです。

大学院での勉強はいかがでしたか。

受験英語はできましたが、聞くこととしゃべることができず困りました。1年の後期にフォトジャーナリズムがあり、初めて撮った写真が褒められて面白くなりました。写真は実技だけでなく写真史、写真論も必要で、そのうちに自分は写真を撮るよりも理論の方が向いていると思うようになり、そちらに進んでいったんです。フェミニズムとか、社会の周縁のこととか、社会学で学んだことを実際に表現できることが面白かったです。

帰国して写真に関する仕事を始められましたが、最初からこの方向に進みたいと考えていたのですか。

日本では写真を生かした仕事をしたいと思っていました。留学中に寄稿していたアサヒカメラの編集部を通じて評論家の飯沢耕太郎さんが、「国際花と緑の博覧会で写真の美術館をつくるのでやってみないか」と声をかけてくださった。それはフリーランスのお手伝いでしたが、その頃同時に「東京造形大学で教えてみないか」との声もかかって、大学で写真史を教えることになりました。

また、同時期に「ヌードの歴史を書いた本を翻訳しませんか」という話が多摩美術大学の伊藤俊治さんからあり、この時期2年間、フリーランスでの花博の仕事や翻訳、大学での仕事などをしていました。

そうこうしていると、東京都写真美術館の立ち上げに関わっていた横江文憲さんが「学芸員の仕事に興味はありますか」と声をかけてくれました。私は修士論文に書いた「セルフポートレイトの展覧会」をやりたいかったので、「そういう企画をやらせてもらえますか」と応え、学芸員の仕事がスタートしました。

「セルフポートレイト」展はセンセショナルを巻き起こすものだったのでは？

「わたしという未知へ向かって 現代女性セルフポートレイト」展はかなり反響がありました。91年だったのですが、当時、5大紙全部に展評が出るということはなかなか

かないことでした。結果的には、フェミニズムやジェンダーの視点からの日本で初めての展覧会であると評価されました。

これまで学芸員をやっけてられて、良かったことと大変だったことを教えてください。

「現代女性セルフポートレート」展などジェンダーの視点からの展覧会を多く開催できたこと。日本の美術館における写真の状況は、アメリカやヨーロッパよりかなり遅れていて、私たちが第一期生なんです。その状況をなんとかしたいという思いがあり、学芸員を選んでこうしてやって来られたのは幸福だったと思っています。

反面、大変だったことももちろんあります。写真家の方に美術館はどのような写真を対象にするかということを知ってもらうのは難しい。それに行政の人との交渉も大変でした。ネゴシエーションのやり方とか、どのように仕事を持っていかなど苦労も多かったです。

石原都知事になってからは、美術館の予算が3分の1に切れ、収集予算もゼロ、展覧会の予算もゼロになり、その中でどうやって展覧会事業を開催するか悩みました。ファンド・レイジングを最初にやった学芸員の一人だったと思います。

ファンド・レイジングとはどのようなことをするのでしょうか。

予算がないので、企業などから協賛をお願いして予算を得ることです。アメリカでは企業の社会貢献は当たり前とされていて寄付の文化がありますが、日本にはそういう文化がないので非常に大変でした。例えば2005年にヴェネツィア・ビエンナーレ日本館のコミッショナー(責任者)をやったのですが、いろんな伝手を使って協賛をお願いしました。いま私が所属している石橋財団を立ち上げた石橋正二郎さんは、自分のお金でヴェネツィア・ビエンナーレ日本館を建て国に寄贈した方なんですね。そのクモの糸のような情報だけで、石橋財団に連絡を取り、飛び込んで協賛金を出していただいたのが、今の美術館との関わりの始まりです。

定年退職が決まっていた頃、丁度この美術館が新しくなる時と重なり、美術館の方からお誘いをいただきまし

た。最初は専門分野が違うのでお断りをしていましたが、現代美術も扱うということで、この美術館にお世話になることにしました。



2005年にヴェネツィア・ビエンナーレ日本館で
タッグを組むことになる石内都さんと(1998年)

アーティゾン美術館でどのような夢を持っているのかお聞かせください。

ここでは私は、マネジメントに徹していますが、後輩の学芸員のやりたいことをバックアップして、結果的に日本の美術館の水準が上がればよいな、と。学芸員が自分の研究を生かした企画展をどんどん開催し、優れた作品を収集する。やっている人達がやりがいを感じ、生き生きと仕事をしているような、私が考えている理想の美術館を目指したいと思っています。

後輩たちへのメッセージをお願いします。

経済的な独立なしに精神的に独立するのは難しいと思います。自分の判断であれば失敗しても納得がいきます。好きなことを仕事にしていると際限がなく、仕事は仕事、と割り切れないのはなかなか大変ですが、それもとて幸せなことだと思います。

「インタビューを終えて」

インタビューを通して、青春時代悩みながら自らの望む新しい道を切り開いてきた笠原さんのこれまでの姿を垣間見させていただきました。後輩たちをバックアップし、日本の美術の水準を上げていきたいという思いはきっと、新たなフィールドを得て実現されていくことと思います。ご活躍を心よりお祈りします。

八ヶ峰ホテル
代表取締役社長

宮坂 好敏 さん
瑞穂 さん

(ともに高校42回
男女共学1期生)



県下最後の女子校となった本校は、昭和62年に男女共学校へ移行し、共学二葉としての一步を踏み出しました。この年の入学生362名中男子は86名。決して多くはない人数でしたが、新鮮な空気が流れ、共学二葉は新たな歴史を歩み始めました。共学初年度入学の42回生の宮坂好敏さんと、同期の奥様瑞穂さんにお話をお聞きました。

共学初年度入学ということですが、当時の二葉高校はどんな様子でしたか。

当時の学校規模は、各学年8クラスで1クラスの人数は45人、全校は千人を超える人数でした。入学した男子は、クラスの4分の1程度。令和5年の入学生は、初めて男子生徒が女子生徒の数を上回ったそうですね。当時の男子生徒は全校の10%に満たない人数でしたが、個性的な人が多く小さくなっているということはなく、たいへん元気でした。クラスの中でも、男子が引っ張っていたという印象が強いです。私たちが3年の時は、会長は男子が務め自分も副会長を務めました。

野球部を立ち上げたと聞いています。苦労も多かったかと思いますが、当時の様子を教えてください。

入学後、野球部を作りたいと動き出した同期が、経験者に声をかけまわり、10名の部員が集まりました。初年度は同好会でしたので、公式戦には出られませんでした。1年目は1つのグラウンドでバレー部、テニス部、サッカー部、陸上部などが練習していたので大変でした。ボールが飛んでいって、ガラスを割ってしまったこともありましたし、バレー部の先輩にボールを当ててしまい、青くなったりしたこともありました。伸び伸びとした練習はできませんでした。

野球部の他にも86人の男子生徒はサッカー、男子バレー、男子バスケ、男子テニスなど精力的に次々と部活動を立ち上げました。

創立80周年に合わせて角間新田に新グラウンドが造成され、翌63年5月29日に竣工式が行われました。当初は石も多く藪のようなグラウンドでしたが、野球部はもちろん、全校生徒が草刈りをするなどして翌年には立派なグラウンドになりました。思う存分練習できる喜びは大きく、2年目には同好会から野球部にも昇格でき、公式戦で初めて1勝したときのうれしさは忘れられません。朝はもちろん、夕方は暗くなるまで夢中で練習しました。竣工記念式典の日、同じ年に男女共学になった岡谷東高校野球部を招待して試合を行いました。同じ境遇だった岡谷東高校野球部とは、よく一緒に練習試合をしたものです。あの時、苦楽を共にした部活の友達とは結びつきが強く、今でも年1回OB会で試合をしています。いい仲間です。



新グラウンド竣工記念横断幕(右から4人目)

そのほか在学時代、印象に残っていることはどんなことでしょうか。

まず思い出すのは、二葉祭のファイヤーストームです。千人以上の生徒が、校庭で肩を組んで丸くなって踊る光景が衝撃的でした。消防車が水をかけた泥沼状態の中を、全校生徒が一体となって肩を組み、泥だらけになって踊ったあの光景は忘れられません。残念ながら野球部は怪我をするからとの理由で2年目からは参加できず、1年の時だけの経験でしたが印象深いです。

他には体育祭で棒倒しをやったことや強歩大会で霧ヶ峰まで走ったこと、音楽会などを思い出します。最後の音楽会ではハレルヤを歌いました。朝早くから猛練習し、たしか優勝できたと思います。賞品はかりんとうでしたがとてもうれしかったです。

ホテル経営をされているようですが、コロナ禍もあり、苦労も多いのではと思います。いかがですか。

高校卒業後は、ホテル経営について専門的に学びました。私が27歳の時に父が亡くなり、何もわからないままホテル経営を受け継ぎました。受け入れ団体は関東の中高生が主です。年間70校ほど受け入れていましたが、コロナが広がり、ほとんどの予約がキャンセルとなりました。それも大きなダメージでしたが、コロナが少し収まり予約が入り始めては再び感染が広がりキャンセルの繰り返しで、正直気持ちが落ち込みました。いつコロナが終息するかもわからないため、従業員もそのまま雇い続けなければならず、非常に苦しかったです。



八子ヶ峰ホテル

それでも、いつかアフターコロナが必ずやってくる。その時によりよいスタートが切れるように、いま何ができるか、できることを精一杯やろう、と考え新規企画を立て、体験学習を見直しました。コンセプトは、信州の大自然・環境を通して、自然との関わりを学び、諏訪地域の歴史や文化、さらには地域の人々と一体となったプログラムの紹介です。学校の様々なニーズに応えられるように、地域と連携し講師となる人材を探し、「自然から学ぶ」「山から学ぶ」「農から学ぶ」「食から学ぶ」など92種類の体験学習メニューを考え「教育旅行ガイドBOOK」を作成しました。

ありがたいことに関東を中心に毎年、山登りに来る学校や、環境学習を認めてくださってコロナ禍でも休まず訪れてくださる学校もあり、これからも学校のニーズに応えられるよう精いっぱいやっていきたいと思っています。



様々な体験学習メニュー

スキー学校を立ち上げたわけですが、その理念を聞かせください。

時代の変化と様々な条件が重なり、「皐白樺湖スノーアカデミー」を立ち上げました。「Positive & Smile Lesson」を目標に掲げ、より質の高い指導を行えるように、指導員の意思統一を図り、受講される皆さんに喜んでいただけるようなレッスンを目指しました。

100名近いインストラクターを集め、シーズン初めにはインストラクター研修会として、サービスマンとしての心得と技術的な指導を行います。6年目を迎え、ようやく成果が現れ始めたように感じています。スキー実習を終えてホテルを離れる時、インストラクターと生徒さんがとても良い関係になり、満面の笑みで大きく手を振り合う様子に、「今回もいい思い出を持ち帰ってもらえた」と、苦労も忘れうれしい気持ちでいっぱいになります。



コロナ禍中で制作した体験学習パンフレット

最後に後輩に期待すること、伝えたいことをお願いします。

一歩踏み出さなければ何も始まりません。自分らしく、失敗を恐れずに、大きな夢と希望を持って頑張っていてほしいと思います。

「インタビューを終えて」

教育現場で求められていることを知り、学校のあらゆるニーズに応えたいと考え、学習指導要領を読み込み地域教材を調べ、各方面の方々と連携し、とことん努力される姿勢に頭が下がりました。50歳を超えた男性同窓生が活躍される様子をお聞きでき、大変頼もしく思いました。お忙しい中、時間を作っていただきありがとうございました。

令和4・5年度 支部活動報告

〈諏訪〉

○支部長 敬称略

(小池幸子 矢島純 熊谷美砂子 小林慈 宮坂康子
大蔵邦子 宮阪ほたか ○進藤久美 永井勝見)

◇11月11日(土)諏訪ガラスの里にて総会開催

「サックス演奏と健康講話」 参加者29名

講師:大阪屋薬局代表 藤森和良様

他に役員による絵手紙展示,お顔のストレッチも行いました。コロナ禍を経て4年ぶりの開催ができました。

前期ご足労された旧3役の皆さんにも出席して頂きました。健康講話は長寿社会が経済を回していくというお話に笑ってうなずきました。紅葉の諏訪湖を眺めながら、8回生～39回生の広い年齢層の皆様とお茶を飲みながら会話が弾みました。偶然会場に見えた金子ゆかり諏訪市長からもご挨拶をいただきました。

〈ハツ葉〉

(斉藤美也子 泉山百合絵 岡本久代 平出直美
小平小春 宮坂瑞穂 ○高木弓子 川口慶子)

ハツ葉支部として、支部活動をするか否か大変迷った1年でした。各役員さんにお電話し様々なお意見をお聞きました。その結果コロナが5類に引き下がったからといっても、集まって活動を行うのは心配であるという意見が多数あり、本年度も活動を行わないことに決めました。次期役員にはハツ葉支部として、コロナ前の活動内容及び活動なしの期間の事などしっかりと伝え、今後新三役の方を中心によく話し合い考えていってほしいとお伝えしました。

次期役員、男性の方も登場しております。お仕事を持っている方多数です。本部理事としての活動もハツ葉支部としての活動も、変革の時期に来ていると実感しました。これからどのように活動してゆくのか、どのように変わってゆくのか静かに見守ってゆきたいと思っています。

〈富士見〉 (○和田保子)

総会は開催していません。コロナ禍で支部の活動はほとんどできていません。そんな状況故か時代の変化もあつてか、同窓会支部での活動、そもそも有り様が明確化(会員みんなの共有認知)がなされていないことを思い知りました。今後は活動制限が緩和されていきますので、そんなことにも留意いただき、より良い会になっていってくれ

たらと思った次第です。

〈下諏訪〉 (○木野月枝 新藤由紀子)

支部の活動はコロナの影響もあり行いませんでした。次期役員が決まらない困難もありましたが、久しぶりの母校での同窓会役員の皆様との意見交換や今の二葉の様子など知ることができ、大変有意義な2年間でした。

〈三ツ葉〉

(○森下知佳 唐澤真知子 山田佐江 濱智野)

コロナの影響で支部ではあまり活動できませんでした。理事会の活動に参加させていただき、現役時も多くの先輩方のお力添えがあったのだと感謝を感じました。この活動が後輩たちにも受け継がれるよう、時代に即した運営により、今後も同窓会が発展していくことを願っています。

〈伊北〉 (○原佐由美)

4年ぶり総会
活動内容共有
諏訪一葉高
同窓会伊北

諏訪一葉高同窓会
伊北支部の定期総会は
26日、辰野町老人福祉
センターで開いた。2
年に1回計画するが、
新型コロナウイルスの影響で4
年ぶり、会員約20人が
出席し、引き続き同窓
会本部と連携し、教養
を高めようということ
を議決した。
総会では、本部の会
議出席など2022、
23年度の活動経過報告
と会計報告を承認し
た。原佐由美支部長は
「4年のブランクはあ
ったが、集えたことが
喜ばしい」とあいさつ。組
織、役員に関わる支部
長が「乳がんとうつを
経験して」の題で話し
た。



同支部は
辰野町と塩
尻市北小野
の同窓会員
を対象に組
織する。総
会に合わせ
てアトラク
ションや外
部講師を迎
えて講演会
を計画する
が、コロナ
禍で会費を徴収しな
かったため中止。原支部
長が「乳がんとうつを
経験して」の題で話し
た。

あいさつす
る原支部長

(『たつの新聞』2023.11.28(火))

〈松本〉 (○胡桃なおみ)

11月11日(土)あさひ分校にて

◇講演会 信州大学病院精神科医師 今井淳子先生

R2・3年度事業報告・会計報告 承認

R4・5年度事業経過及び会計中間報告・予算案承認

松本支部規約改正案

参加者 総会13名 講演会16名

出身中学などのつながりが無い松本支部で支部の活動をする難しさに直面しています。総会の参加人数も少なく、役員から支部活動の意義を問う声が出ています。松本支部を存続させるかどうか難しい局面にきていると思います。

〈長野〉（○永田きより 宮澤敦子）

7月10日(土)長野駅前「宴席油や」にてR6・7年度の役員決めをするために卒業30回の方とR2・3の前回役員、今年度のR4・5の方に声をかけました。9名の方が出席いたしました。約2時間余り、役員決め、今後の活動について、支部の今持っているお金の使い方について食事をとりながら話をいたしました。

決まったこととして、今後の活動としては役員決めの時に一席設け同学年の方たちと交流をしていければとの話になりました。今、支部として持っているお金も今年度は切手代等で通信費として使わせていただきました。今後は食事会の補助もしていくという話で決定しました。少人数の会でしたが、50年前に戻ったかのように話は尽きずに楽しいひと時を過ごしました

〈東京〉（令和4年度 ○内田眞理子）

新型コロナウイルス禍の制約の中で、総会も中止とした一方で、リモートの利便性と併せて対面での役員会が復活できたことは有益でした。「東京支部だより」の編集はメールを活用、また同窓生へのインタビュー、恩師との往

復書簡を盛り込み、第27号を刊行することができました。役員の確保については避けては通れない問題であり、負担の軽減等を含め継続課題としましたが、令和5年度に向けてよい後継役員に引き継ぐことができたことは支部にとって幸いなことでした。有能な役員に助けられ、情熱あふれる恩師の思い出話を肴に高校時代の楽しいノリで過ごすことができたことは支部長冥利につきます。感謝。

（令和5年度 ○松村佳代）

5月20日に4年ぶりに総会を実施。工藤千秋先生による講演「認知症、入口で見つければ約30%はホンモノにならない～その意味と予防実践～」を開催し大きな評価をいただきました。会報28号にて講演会の内容を掲載したほか、「活躍する卒業生 東真由美さん」、昨年度の二木先生との往復書簡に続く「卒業後の往復書簡 第二信『中島森利先生』」、「思い出に残る先生のつぶやき」と会報企画に広がりを持たせ、さらに会員のつながり、先生方とのつながりを深めるようアイディアを出して進めることができたと考えます。また2023年5月20日に開設した支部LINEにより190名程度の新規会員を獲得し、情報共有を進めています。

令和6・7年度 同窓会役員名簿

役員・支部	卒業回数	氏 名	役員・支部	卒業回数	氏 名
会 長	高校31回	河 西 美智与	ハツ葉第3	高校28回	三 浦 小百合
副 会 長	高校31回	朝 倉 律 子	ハツ葉第4	高校39回	清 水 和歌子
副 会 長	高校32回	伊 東 初 枝	ハツ葉第5	高校35回	永 由 真 里
副 会 長	高校32回	竹 内 きよみ	ハツ葉第6	高校44回	増 澤 靖 枝
監 事	高校31回	小 松 ま や	ハツ葉第7	高校33回	小 松 紀 子
監 事	高校32回	小 池 あや子	富 士 見	高校32回	小 澤 佳代子
諏訪第1	高校35回	守 矢 淑 子	下 諏 訪	高校41回	小 松 理 子
諏訪第2	高校47回	矢 島 純	下 諏 訪	高校43回	野 田 美 紀
諏訪第3	高校31回	唐 澤 裕 子	三 ツ 葉	高校43回	伊 藤 こず恵
諏訪第4	高校35回	小 林 慈	三 ツ 葉	高校43回	矢 島 住 香
諏訪第5	高校36回	中 澤 理 恵	三 ツ 葉	高校44回	中 村 八 千
四 ツ 葉	高校27回	小 澤 文 子	三 ツ 葉	高校44回	安 仲 智恵子
豊 田	高校35回	小 澤 智 里	伊 北	高校26回	一ノ瀬 和 泉
中 洲	高校36回	原 田 慶 子	松 本	高校41回	湯田坂 幸 枝
湖 南	高校27回	一ノ瀬 文 枝	長 野	高校30回	西 澤 みゆき
ハツ葉第1	高校50回	矢 島 由 照	長 野	高校30回	稲 田 圭 子
ハツ葉第2	高校45回	宮 澤 祐 紀	東 京	高校31回	松 村 佳 代

諏訪二葉高校同窓会(事務 相澤容子)
開室時間(原則) 月・木 9:30~14:00

〒392-8549 諏訪市岡村2-13-28

☎0266-52-9595(FAX兼) 同窓会携帯 ☎080-7840-7208
同窓会室e-mail: suwafutaba_obga@yahoo.co.jp

諏訪二葉高校

〒392-8549 諏訪市岡村2-13-28

☎0266-52-4628

☎0266-57-2420(FAX兼)

個人情報保護のため、役員の住所・電話番号は掲載しません。支部長に連絡する必要がある場合は、お手数ですが、同窓会事務局まで、ご連絡ください。

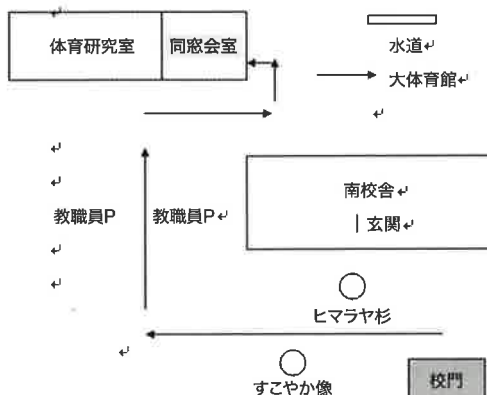
お知らせ (告知板)

学校設備支援

- ①二葉セミナー補助 ②部活動補助
- ③FF式暖房機設置 ④「天板拡張くん」
- ⑤「大正のオルガン」カバー

同窓会室ご案内

校舎正面玄関から左側に回り込んだ体育館の一角に同窓会室(下図参照)があります。事務局担当者がいる日は限られていますが、同窓生としての居場所です。必要な際は、ご利用ください。



寄付

- 【遺志金】・増澤れい子 様(女37) 1万円
- ・濱田真由美 様(高24) 2万円
- 【寄 付】・斉木美恵子 様(高13) 2万円
- ・清水 保 様(女38) 1万円
- 【寄 贈】・河西 貴克 様 「故河西宗一先生の追悼文集」
- ・齊藤美恵子 様(高9) 百人一首、『源氏物語』、『東慶寺写真集』、書の額、貼り絵
- ・加藤 竹美 様(高9) 絵画「カサブランカ」
- ・山崎 康子 様(高18)『絵画サークル諏訪50周年記念誌』



同窓会事務局担当者が、変わりました。

令和4年4月より、相澤容子さん(高校28回)が事務局に勤務しています。相澤さんは令和2、3年の副会長を務めた経験を活かし、円滑な事務を行ってくれています。

事務局からのお願い

- ☐住所等、会員情報に変更があった場合は、事務局までご連絡ください。
- ☐郵送やFAX、e-mailに【氏名(在学時の姓)、卒回、郵便番号、住所＝新旧、電話番号】をお書き添えください。
- ☐ご逝去された方の場合も、同様に連絡をお願いいたします。
- ☐会報は終身会費をお納めいただいた会員様にお届けしております。昭和63年以前に卒業され、会報が届いていない方は終身会費を納めていない可能性があります。住所変更の連絡のない方も住所不明により会報をお送りすることができません。会報が届いていないなどご不明なことがありましたら、事務局までお問い合わせください。

- ◇令和5年開催の第89回定期総会での「ボサノバライブ『赤羽泉美～森薫るボッサ～』」並びに、今年度開催の第90回定期総会での「宮坂佐和子さんの講演」が、右記のURL・QRコードで視聴いただけます。期間は令和6年5月1日(水)～5月31日(金)までです。総会に参加できなかった方向けに発信方法を考えました。ご視聴ください。
- ◇定期総会・親睦バス旅行のお知らせは、事前に新聞広告、二葉高校同窓会ホームページに掲載いたします。ぜひ、チェックをお願いいたします。
- ◇二葉高校同窓会のサイト内に「東京支部」のサイトができました。1号からの「支部だより」も閲覧可能です。素敵な情報満載です。アクセスしてみてください。

諏訪二葉高校同窓会 第89回定期総会



<https://chubu-creative.com/live-free-futaba-soukai-r5/>

諏訪二葉高校同窓会 第90回定期総会



<https://chubu-creative.com/live-free-futaba-soukai-r6/>

編集後記

新型コロナウイルス5類移行に伴い、「4年ぶりに」という言葉を多く目にします。同窓会活動も、この2年間に、規模を縮小しながらも、少しずつ以前の活動を取り戻すことができました。ただ、各支部の活動をどうするかという問題が提起されています。お知恵をお寄せください。

本会報の発行にあたり、お忙しい中インタビューに応じてくださった皆様はじめ、ご協力いただきました、すべての皆様に感謝いたします。(役員一同)

